

高齢聴覚障害者と強制不妊手術問題



社会福祉法人埼玉聴覚障害者福祉会
特別養護老人ホームななふく苑
施設長 速水 千穂

ろう者の願いの詰まった 特別養護老人ホームななふく苑

「老後も手話で安心して生活できる老人ホームを」
ろう者の願いにより、6年間で3億円位貯めて
平成18年4月開所

埼玉県入間郡毛呂山町西大久保766-1



- 入所 定員68名
- 短期入所（ショートステイ） 定員5名
- 居宅介護支援（居宅ケアマネ）
- 通所介護（デイサービス） 定員25名
- 毛呂山町地域包括支援センターななふく苑支所
- 特定相談支援事業

全国で聴覚障害者向けの
 老人ホームは10法人12施設だけ
 特別養護老人ホーム…6ヶ所
 養護老人ホーム…4ヶ所
 サービス付高齢者住宅…1ヶ所
 有料老人ホーム…1ヶ所
 視覚障害者向け老人ホーム…約80施設

北海道
 養護 やすらぎ荘 1981年
 特養 新得やすらぎ荘 1990年
 サービス付住宅 ほほえみの郷 2017年

京都
 特養 いこいの村・梅の木寮
 1992年

大阪
 特養 あすくの里
 2004年

広島
 養護 あすらや荘 1976年
 特養 あすらや荘 1977年

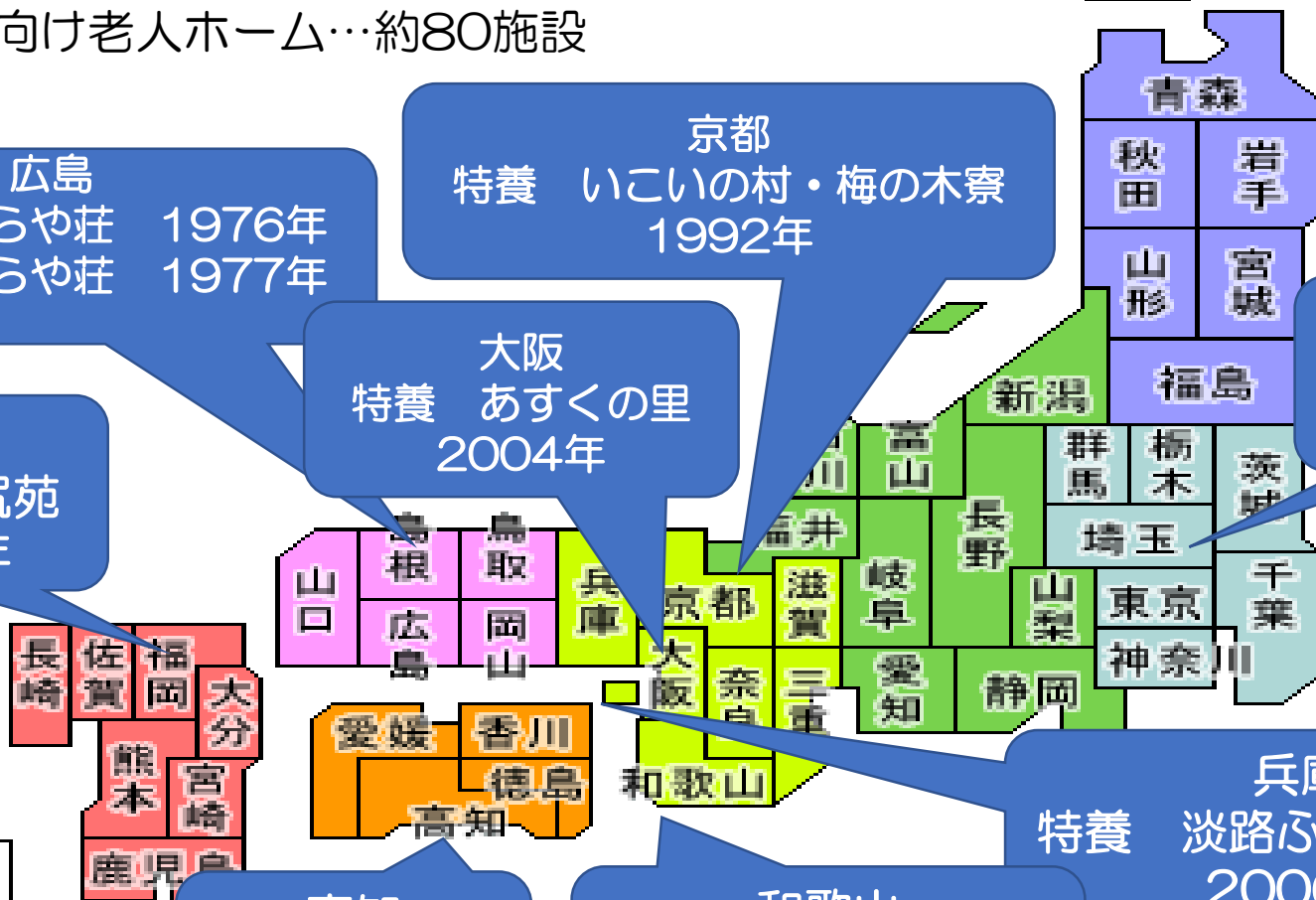
福岡
 養護 田尻苑
 1992年

埼玉
 ななふく苑
 2006年

兵庫
 特養 淡路ふくろうの郷
 2006年

高知
 養護 静幸苑
 2016年

和歌山
 有料 きのくにの手
 2018年



沖縄

—高齡聴覚障害者と旧優生保護法—

ひっそりと生きてきた「ろうあ者」たち

○本人の意思に関係なく
「断種手術」が可能だった時代を
生きてきたろうあ者たち

- ろうあ者同士の結婚は、聞こえない
子供が生まれるからダメ
- 反対を押しきって結婚
聞こえない子どもが生まれた→「ほら見ろ」
聞こえる子どもが生まれた→「よかった」「2人目はダメ」



ひっそりと生きてきた「ろうあ者」たち

◎手話への偏見

「あいつら、手真似なんかしてるぞ」
「手真似しかできないから馬鹿なんだ」
「さるみたいに、みっともない」

◎手話（手まね）を禁止したろう教育

- 昔のろう教育の目的はろう児を「普通人」に育てること
- 「口話法」中心のろう教育
- 「読唇力」のある子、「発音」の上手にできる子は優等生

「わがままを言わず、素直に。

聞こえる人に可愛がられる人になりなさい。」—

ななふく苑の聴覚障害をもつ 入居者達の家族関係と想い

- ①親族から疎ましがられてきたろうあ者
- 兄弟にろうあ者がいることを家族に話していない。自分が死ぬ前に死んでほしい。
 - 関わりを持ちたくない。死んだときはそちらで火葬して骨にして。
 - ろうあ義妹の世話が大変。不就学で、ずっと実家の隣のプレハブの家に閉じ込めていた。
- ②親戚へ里子に出されてしまった一人目の娘さんをずっと気にしていたお母さん
(2人目の息子さんは「どうしても自分で育てたい」と手放さなかった)
…ななふく苑で娘さんとの再会

ななふく苑の聴覚障害をもつ 入居者達の家族関係と想い

- ③ デフファミリー（夫婦、子供全員がろう者）の子どもが面会によく来て、手話で楽しそうに話しているのを見て、「自分も子どもが欲しかった…」と後悔
- ④ 「産んだ子を里子に出した」と、苦笑い帝王切開で出産時、不妊手術
- ⑤ 「親がああだから、自分もバカなの。わかるでしょ」という息子さん

ななふく苑の聴覚障害をもつ入居者達の人生

○ 不就学 ななふく苑では

2012年	50名中 12名	24%
2019年	64名中 3名	5%

○ 結婚歴あり ななふく苑では

2012年	50名中 25名	50%
2019年	64名中 42名	66%

○ 子どもの有無 ななふく苑では

2012年	50名中 子供がいない…37名	74%
2019年	64名中 子供がいない…35名	55%

- お腹に手術痕のある入居者は多い。
男性で去勢手術をした方も。
- ろうあの親を持つ子どもさん
…子ども時代の葛藤。
大人になって親の苦労を理解。
- 手話サークルで手話指導、ろうあ協会
で活動していた親を見てきた子どもさん
…大人になってから親を誇りに。

戦後のろうあ者の復権運動で

- 入居者が亡くなった時のななふく苑での「お別れ会」の雰囲気は少しずつ変わってきている。
- 前は親族の形だけの参加が多かった気がする。
- この数年で、別れを惜しみながらのお別れが少しずつ増えてきたような感じがする。
「今までありがとう。」「天国でお父さんに会えるね。よろしく伝えてね。」「よく頑張ったね。」
甥・姪御さんも、「小さい頃、よくかわいがってくれたから、きちんとお別れしたくて」
- 「手話」の普及、「手話」への偏見がなくなってきていることの影響か。10年後、20年後は…？

全日本ろうあ連盟の「旧優生保護法」に基づく強制不妊手術等の調査

◎2019年11月末の中間結果

- 167人（男性45人・女性122人）
- 延べ192件（同じ人が複数回受けたケースも）
- 不妊手術を受けた女性82件
- 人工妊娠中絶は延べ50件
- 4回中絶された後、5回目の妊娠で家を出て、2人子どもを産んだ人も…

◎ななふく苑から、全日本ろうあ連盟に報告…7名 （女性6名・男性1名）

◎手術の経緯

- 近親者やろう学校関係者に手術を勧められたり強制された方
- 周囲からの誤情報により、本人が自己決定できなかった方



兵庫の小林さんご夫婦

- 夫婦の母が医師に相談。
- 「赤ちゃんがくさってる」と中絶、不妊手術。
- 怒りの夫、母は「私を殺しなさい」

◎ある女性の高齢ろう者から

『夫も聞こえないから親・親戚から結婚を反対されたけど、「子どもを絶対作らない」という条件付きで、結婚したの。夫がとっても好きで、どうしても結婚したかったから…仕方がない。』

◎子どものいる高齢ろう者は

- 国の「優生保護法」により「不幸な子どもの産まれない運動」で〇〇県が不妊手術費用を予算化
- 財政の厳しい県は、不妊手術費用の予算が限られ、家族が不妊手術を申請しても予算がないと断られ、手術できなかった
(手術を逃れた) 人は幸運だった・・・？

◎障害者権利条約 第17条

「すべての障害者は、他の者との平等を基礎として、その心身がそのままの状態
で尊重される権利を有する」

- みんなの意識や世論を変えていくために
- パラレルレポートで日本の現状課題を明らかに

- 当事者だけでなく、親御さん、きょうだい、子どもさんもまた、「優生思想」に支配され、葛藤してきた被害者
- 自分の中の「優生思想」とも向き合う
永遠の、大切なテーマ
- 一人ひとりが大切にされる、
一人ひとりが人として尊重される
「憲法」の生きた社会に！